

高度な技術と最新の設備で安全・安心の麻酔を提供

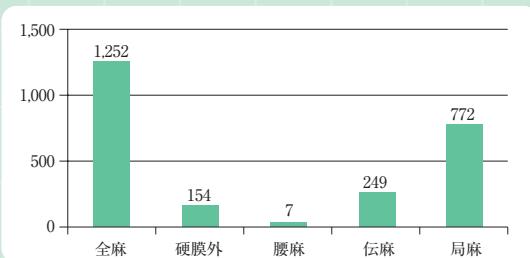
術中の安全だけでなく、術前のリスク評価から術後の疼痛管理まで一貫した質の高い麻酔管理



麻酔科代表部長
吉田 長英

当院麻酔科は、今年度からは常勤2名非常勤6名で麻酔業務に当たっています。

2017年度の麻酔科実績は、麻酔科管理は1,413件で内訳は全身麻酔が1,252件、硬膜外麻酔が154件などです。（図1）



当院麻酔科は、ハイリスクの麻酔が多く、特に、心・血管系のリスクを持った患者さんが多い事が特徴です。そのため、血行動態管理や麻酔深度（BIS）など、高度な仕様のモニターで患者さんの状態を監視しつつ、様々なデバイスを用いて安全を確保し、日々麻酔を行っています。その一例としてエアウエイスコープが挙げられます。（写真1）これは、挿管困難、あるいは頸部伸展が脊髄損傷を招く危険のある患者の挿管に有効です。その他、マックグラス・エアウエイブジー・気管支ファイバー等を用いて挿管を行っています。



写真1 エアウエイスコープ

また、術中管理だけでなく、術後の鎮痛管理も麻酔科の重要な役割です。

PCA (patient controlled analgesia) 回路を用いて経静脈的に、あるいは硬膜外カテーテルを通して鎮痛薬を持続投与し、術後の疼痛コントロールを行っています。（写真2）また、一部の手術では超

音波装置を用いた安全性と確実性の高い神経ブロックを行っており（写真3）術後鎮痛に大きく貢献しています。状態が悪く全身麻酔が困難な症例に対しては、超音波ガイド下神経ブロック単独で下肢切断などの手術を行うこともあります。



写真2 IV-PCA



写真3 超音波ガイド下神経ブロック

研修医の実習は年間を通して行っており、術前評価から麻酔管理、術後回診など教育にも重点を置いています。

その他、年に2回、救命救急士の研修も行っています。挿管練習用人形を用いて様々な気道確保の練習を行い、実際にマスク換気も研修しています。（写真4）



写真4 救命救急士研修

最後になりますが、当院麻酔科は、安全・確実な周術期管理と質の高い術後鎮痛を目標に、日々麻酔を行っており、皆様と協力しながらやっていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。